

持続的な、
社会と世界を。

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

近畿農政局の業務について

農林水産省 近畿農政局

CONTENTS

本日はお話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

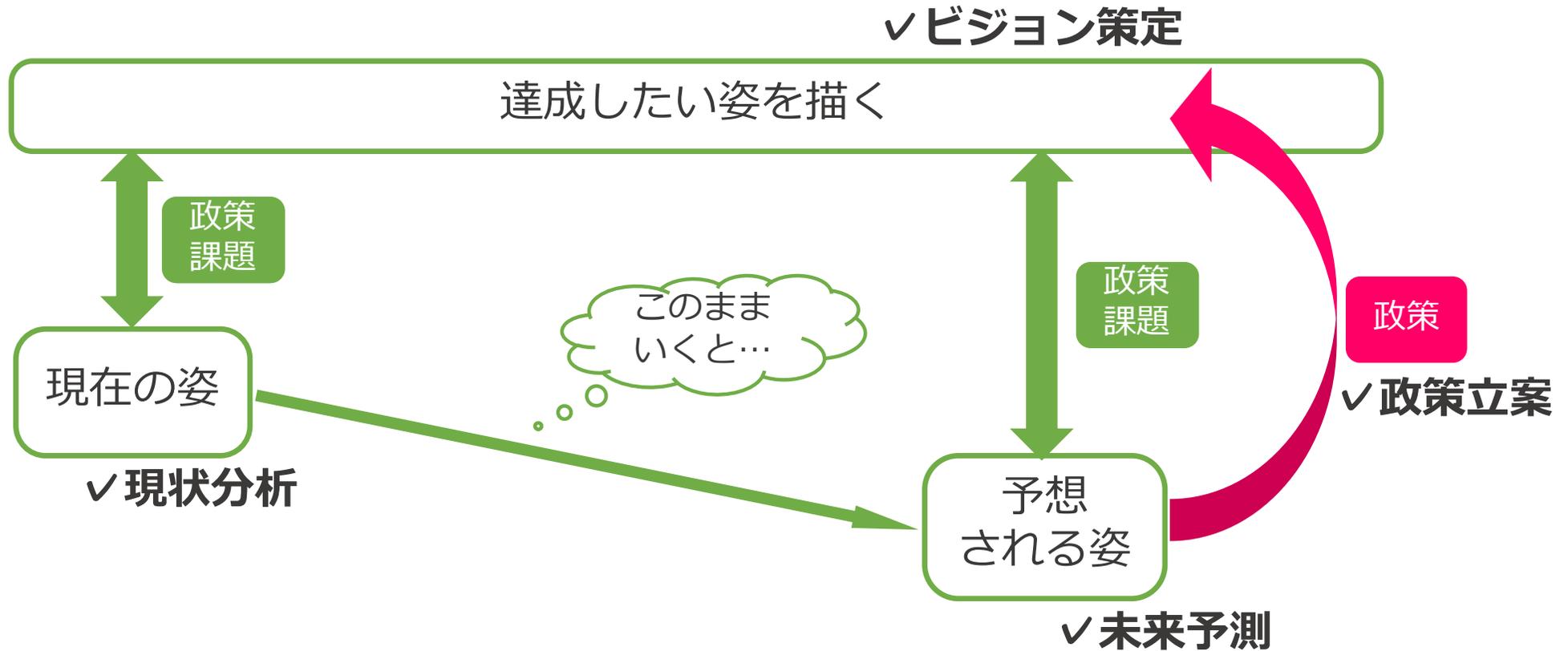
03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

国家公務員とは？



- 現状分析→ビジョン策定→政策課題の特定・未来予測→政策立案→合意形成→政策実施
- いわゆる「社会を良くするしごと」
ただし、地方自治体や民間企業も、社会を良くするために働いているのは同じ。
違いは、**1. 使えるツール（法律、予算、税制）**
2. 「日本全体」の利益を考える役割

CONTENTS

本日本話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

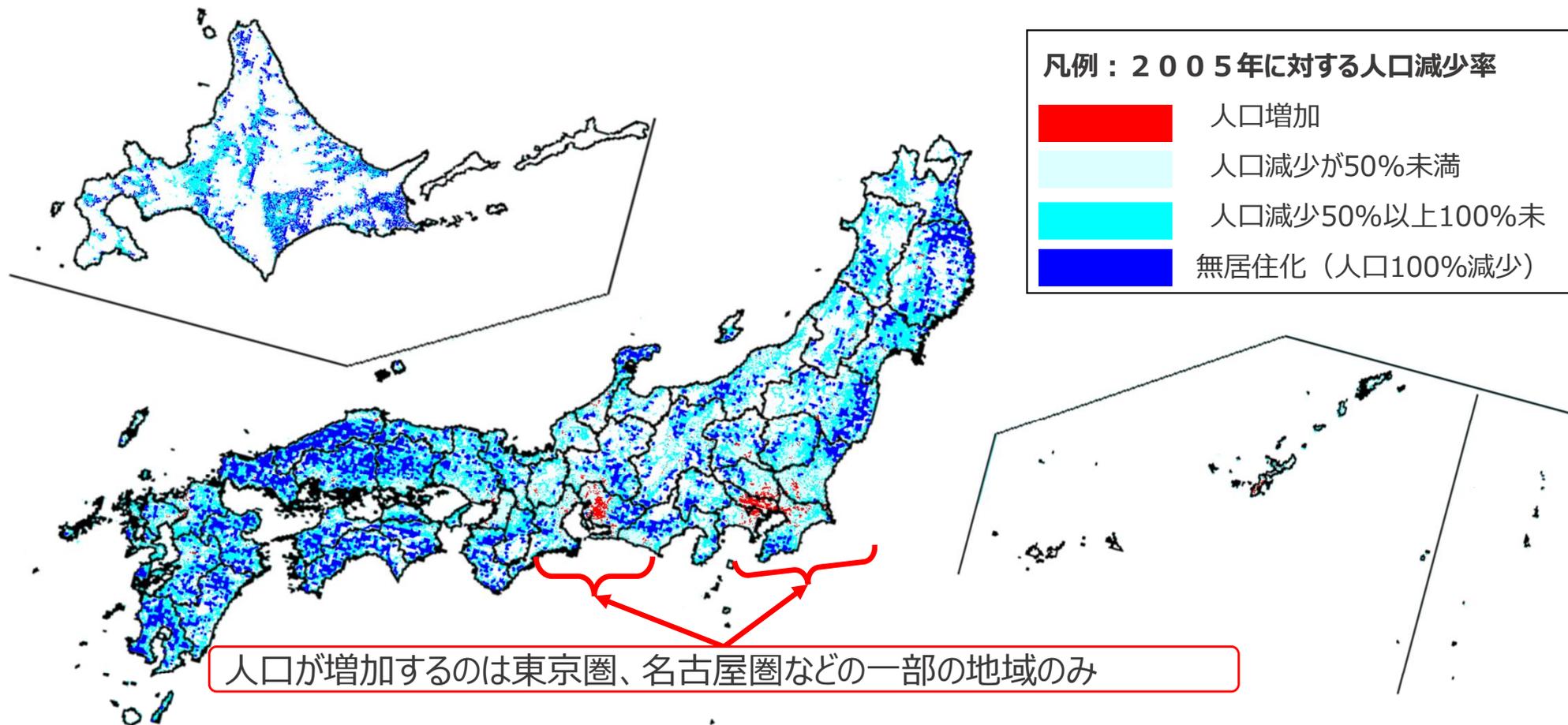
農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

**大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率が日本全体の人口減少につながっている。**



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

人口減少、過疎化は地方だけではなく**日本全体の課題**

【GDP世界4位】

過疎化・人口減少の加速化による消費・経済力の低下
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県（茨城・千葉・愛知）の割合は約13.7%

ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、観光資源の喪失

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

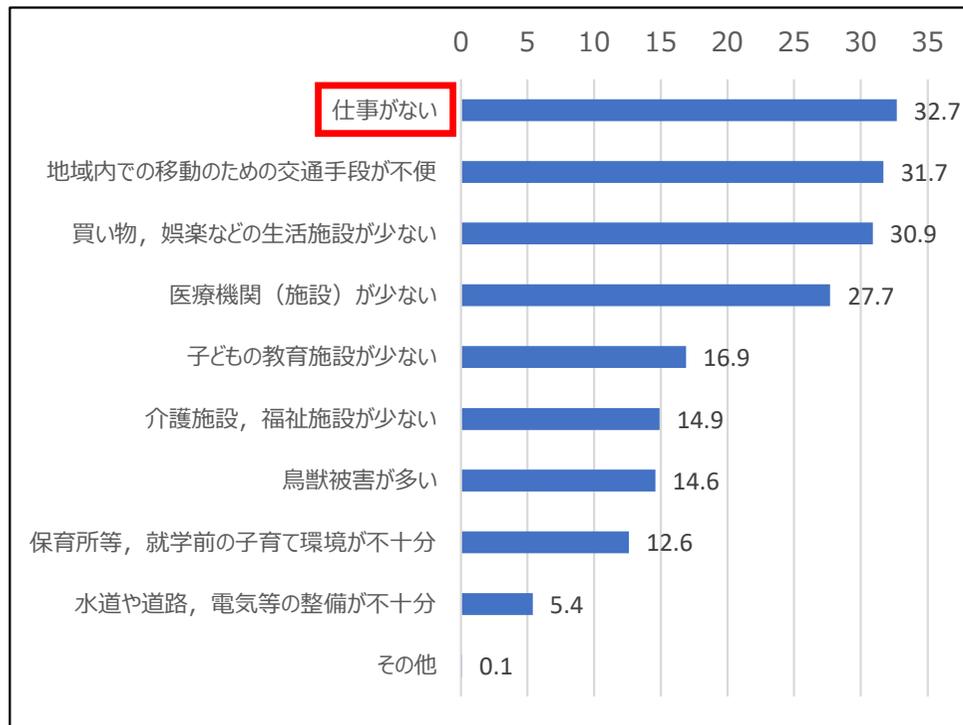
※平成29年度生産農業所得統計

※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

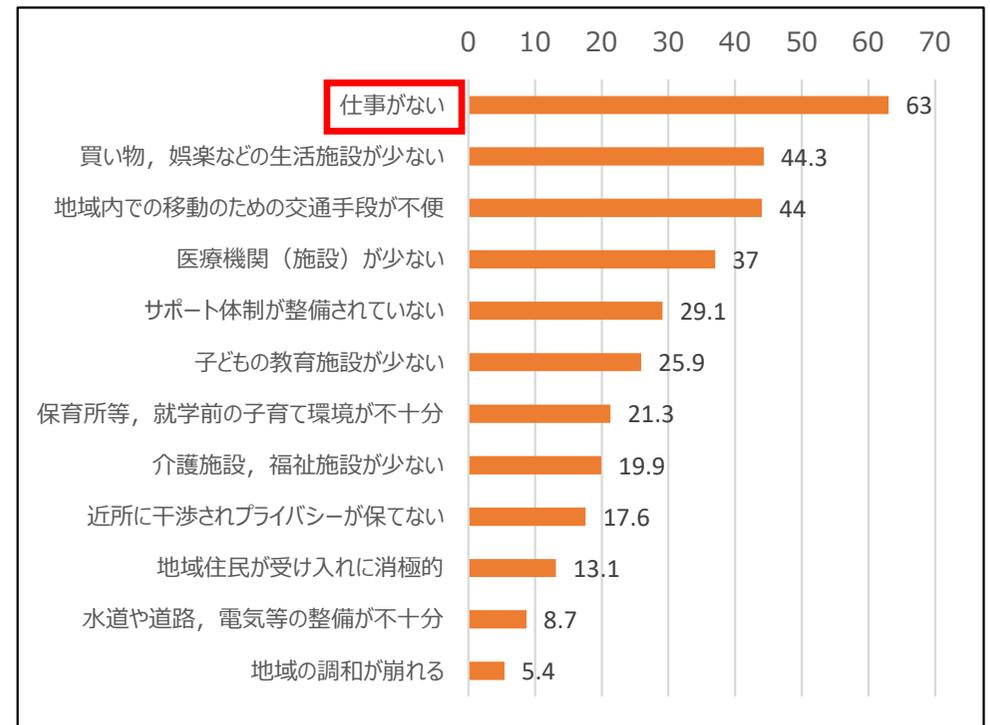
過疎化を食い止めるには

農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



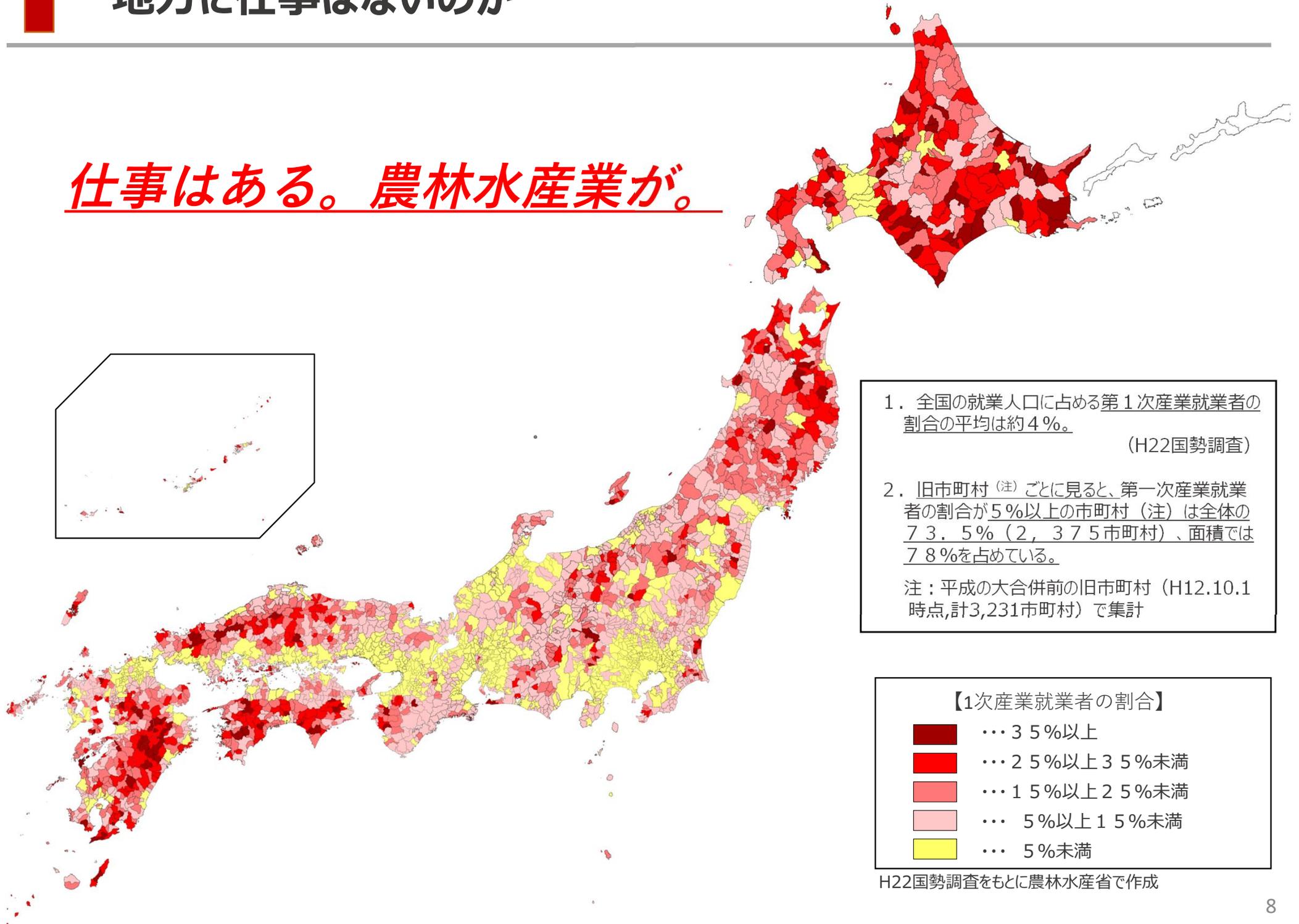
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

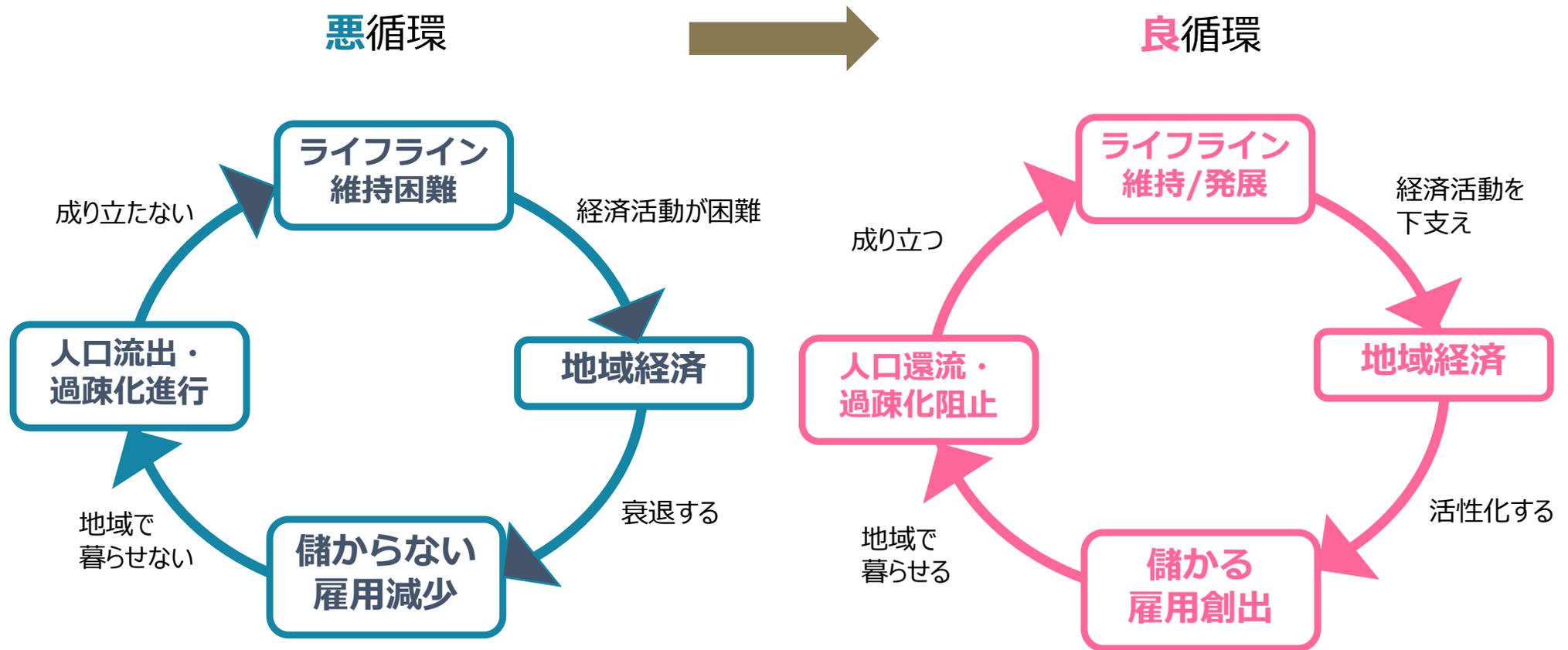
仕事はある。農林水産業が。



問題は魅力的な就業先ではないこと

問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

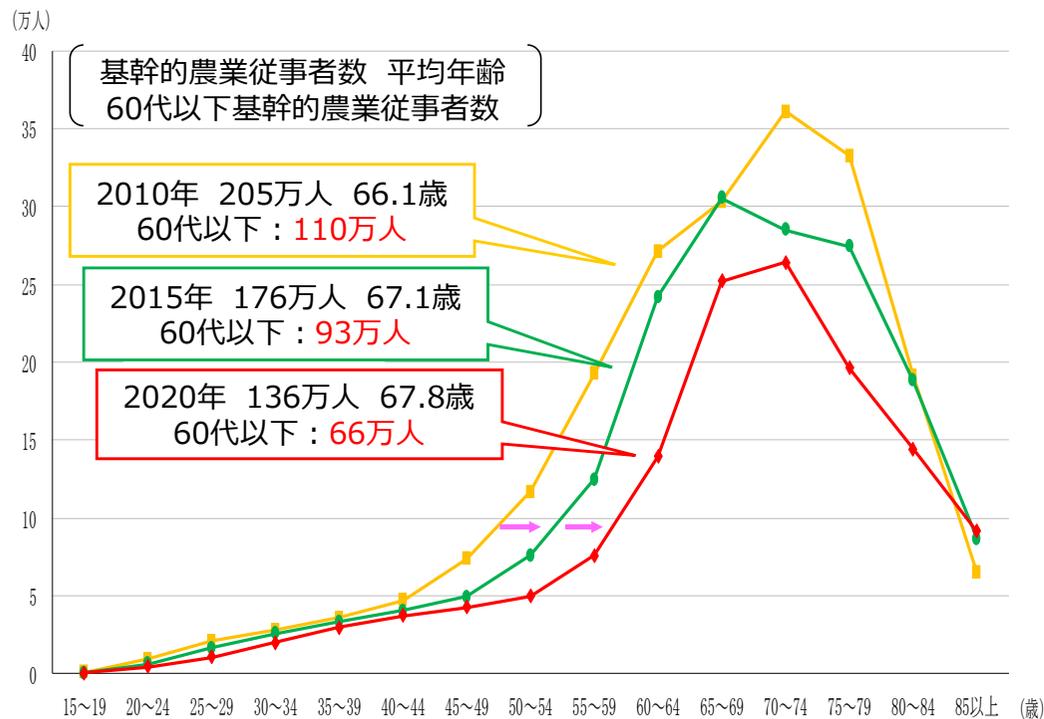
➡ 地方居住者の魅力的な就業先として機能させたい



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢68.4歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

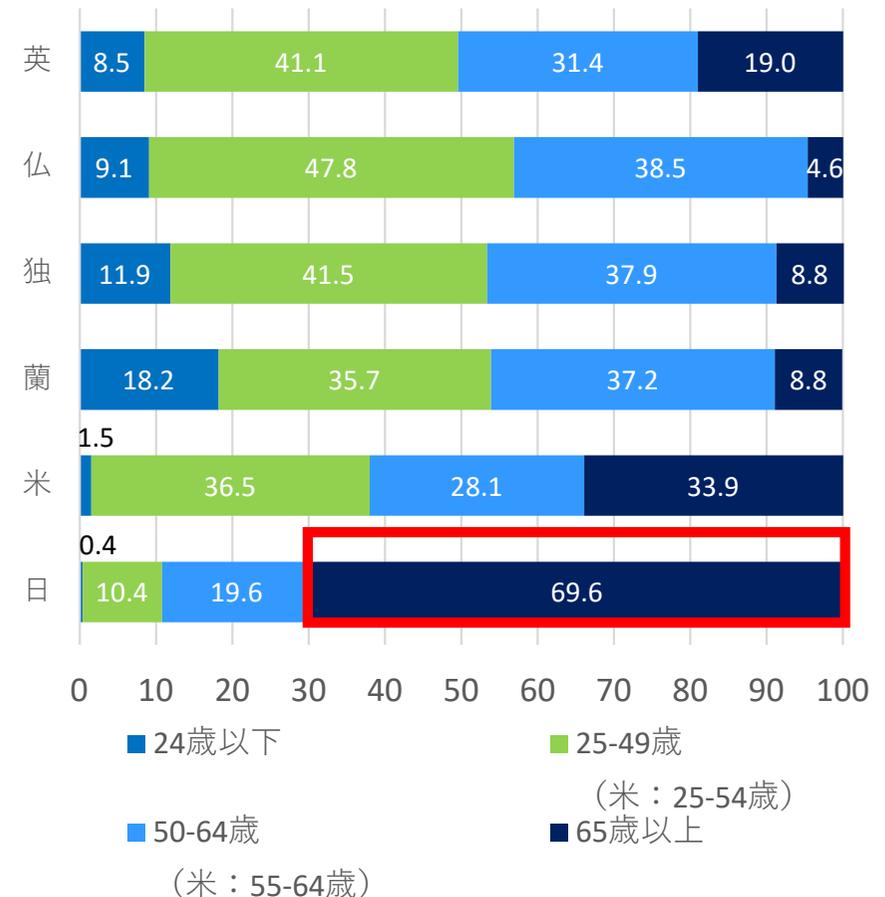
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
 ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

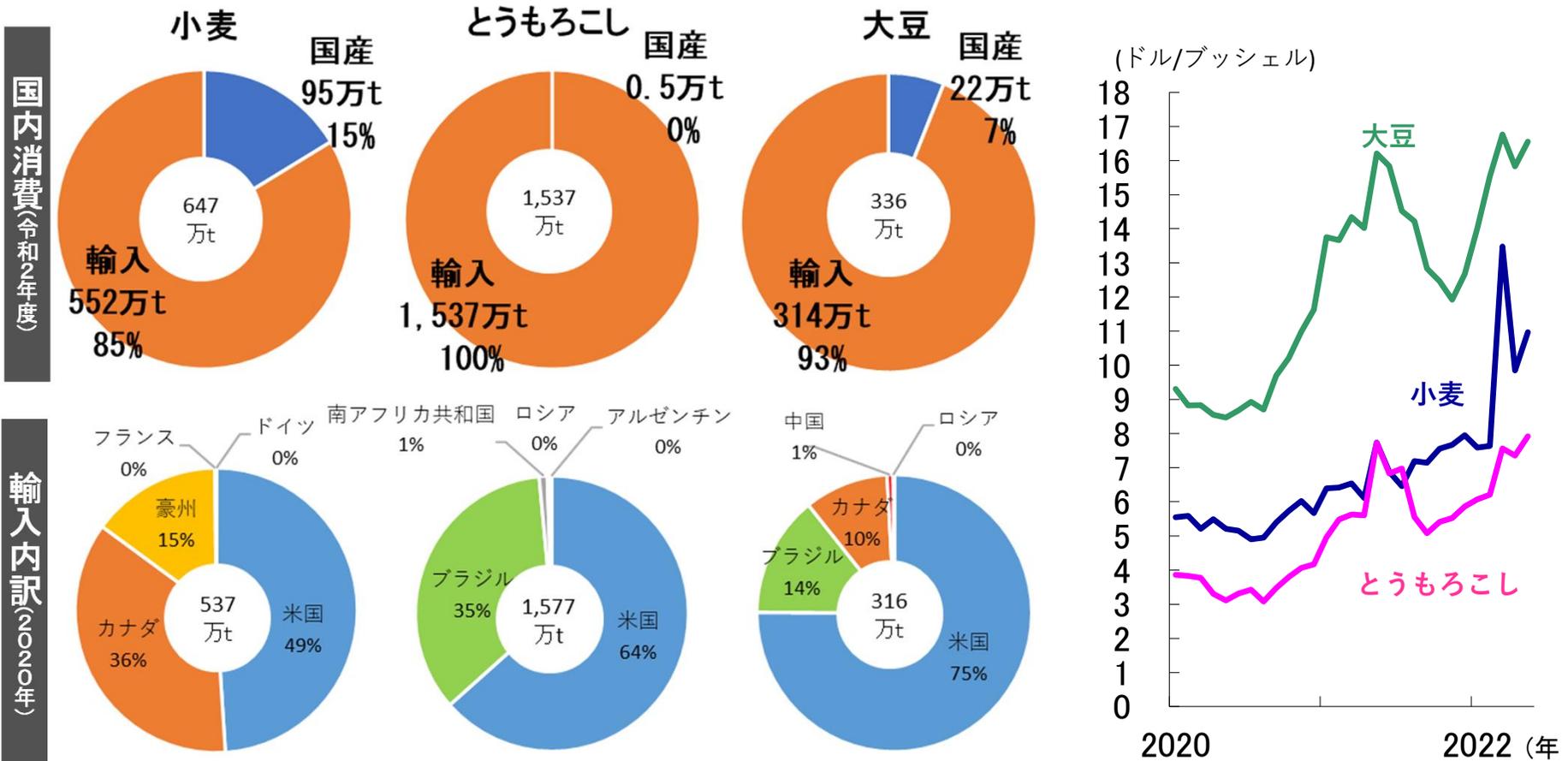


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
 仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
 米は、米国農務省「2017年農業センサス」
 : 農業に従事した世帯員
 日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
 : 基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく**輸入に依存**。一方で、**気候変動**や**新興国の輸入需要の増加（食料争奪戦）**、**ウクライナ情勢**により、相場は**高騰**

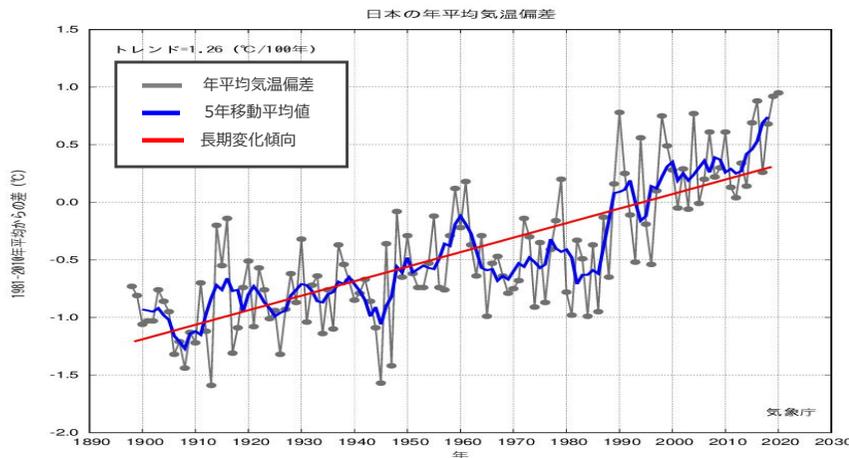


注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。
 注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年度）。
 輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。
 注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。
 注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費=国内生産+輸入と仮定。
 注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

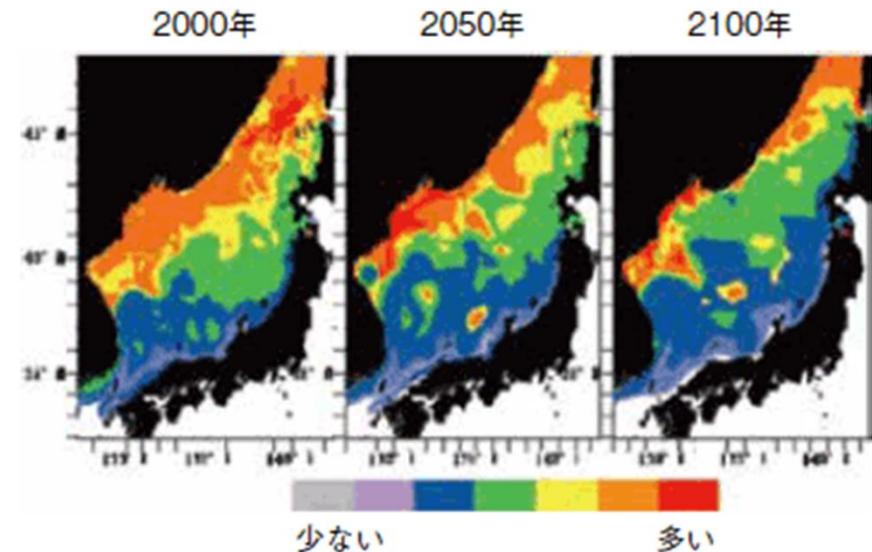
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26℃**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



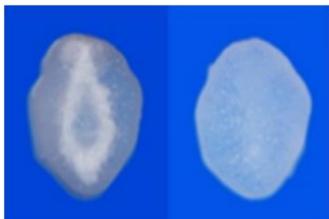
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



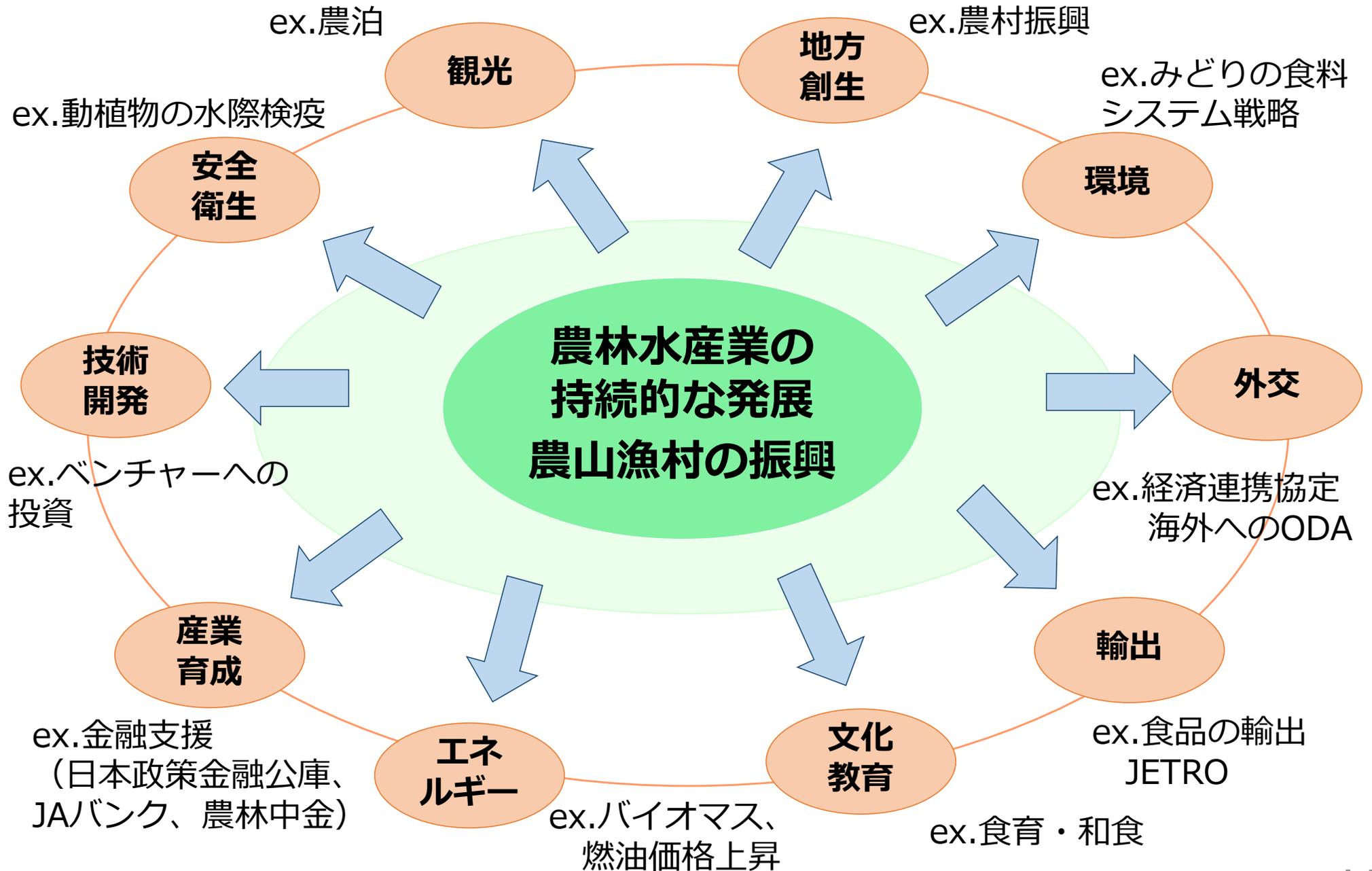
白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

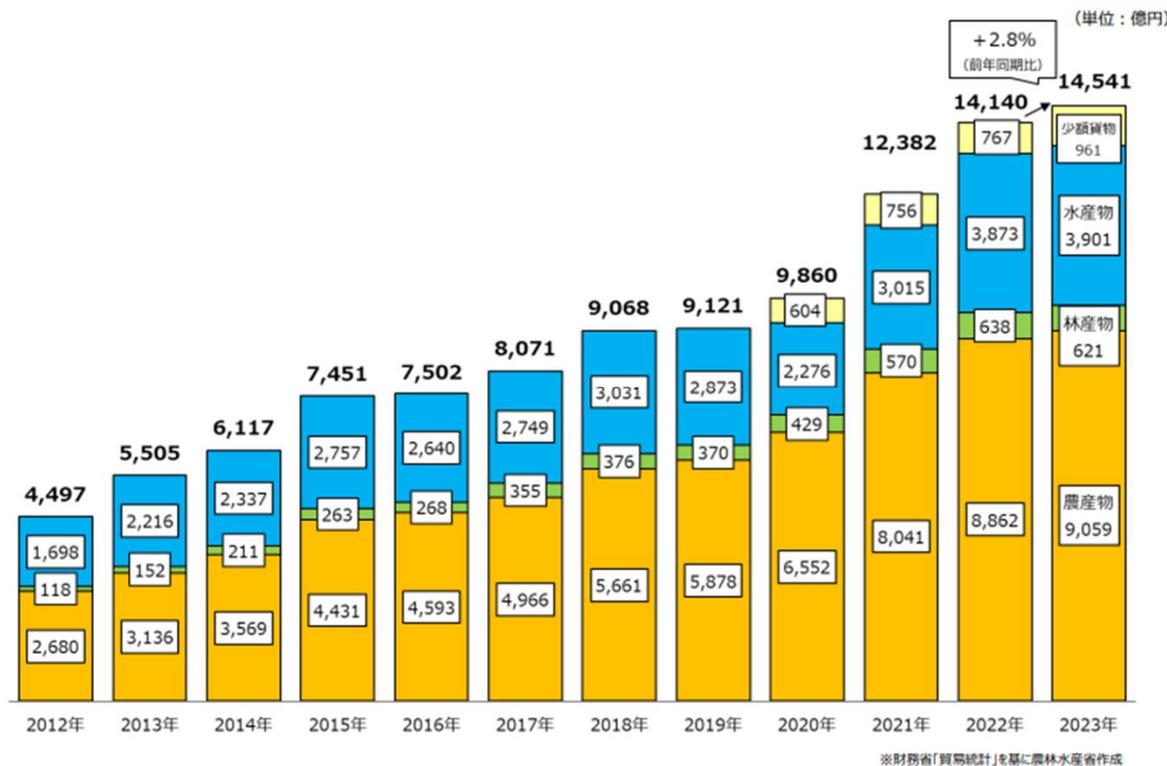
「食」と「環境」を未来に継承するために ～1次産業を核とした多様なフィールドと、豊富な政策ツール～



農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年 1兆円目標を突破！
2030年輸出額 5兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

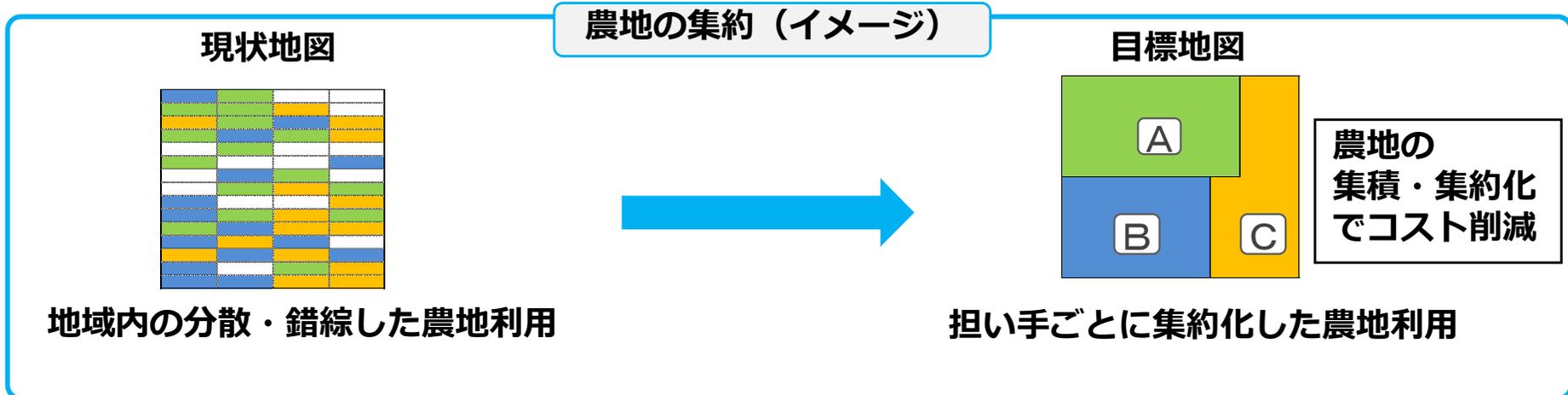
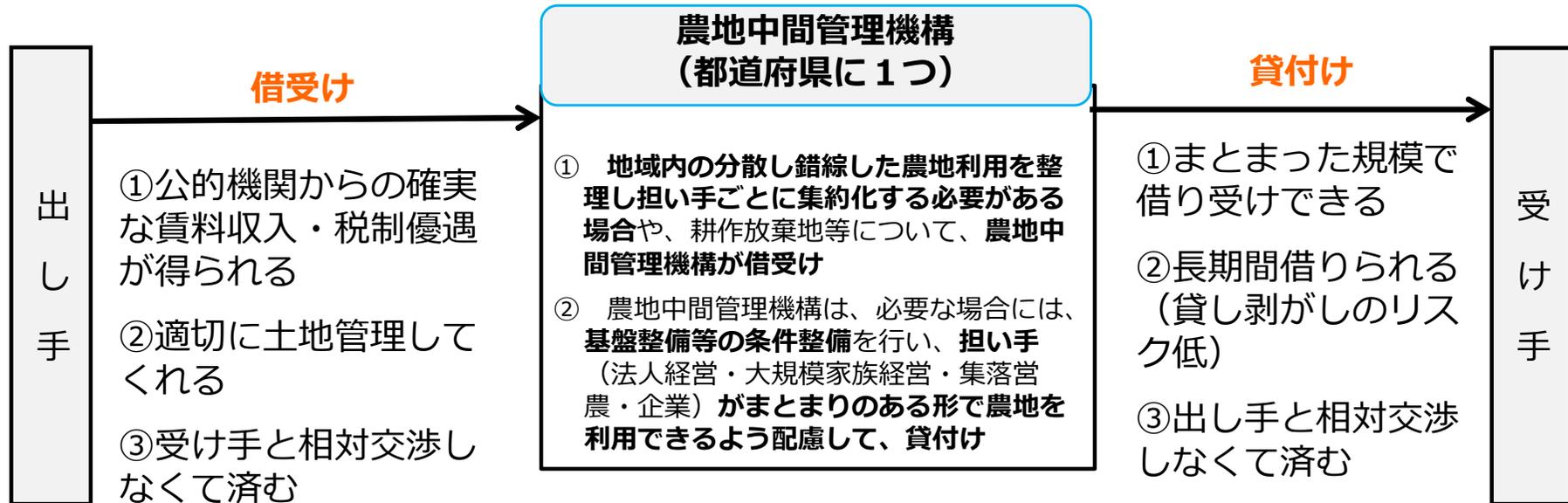
国名	生産額 (農産物・ 食品製造業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

農林水産業の持続的な発展：農地集積による大規模化・コストダウン

- 離農者などは「**農地中間管理機構**」（**農地バンク**）に農地を預け、地域の話合いに基づき市町村が作成する「**目標地図**」に沿って、農地バンクが企業を含む「**担い手**」に一括で貸出し。



農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

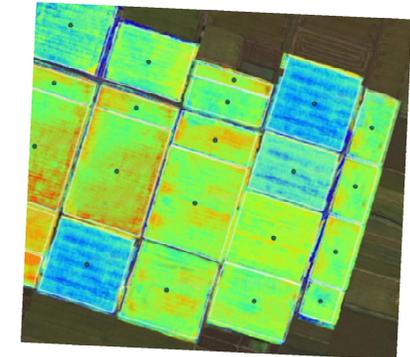
AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



無人作業中の自動運転田植機



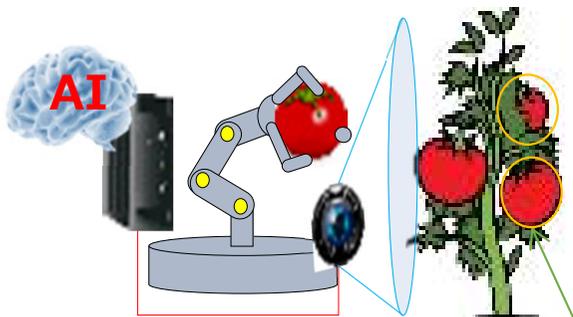
水稲の葉色マップ例



薄 ← 葉色 → 濃

薄 ← 葉色 → 濃
(不良 生育状況 良)

リモートセンシングによる農場の可視化



情報処理量を減らせるので速い

葉や茎をよけることを学習するので獲れる

AIを活用した野菜収穫ロボットの開発

農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

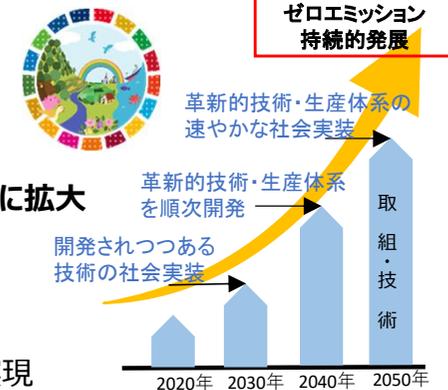
**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

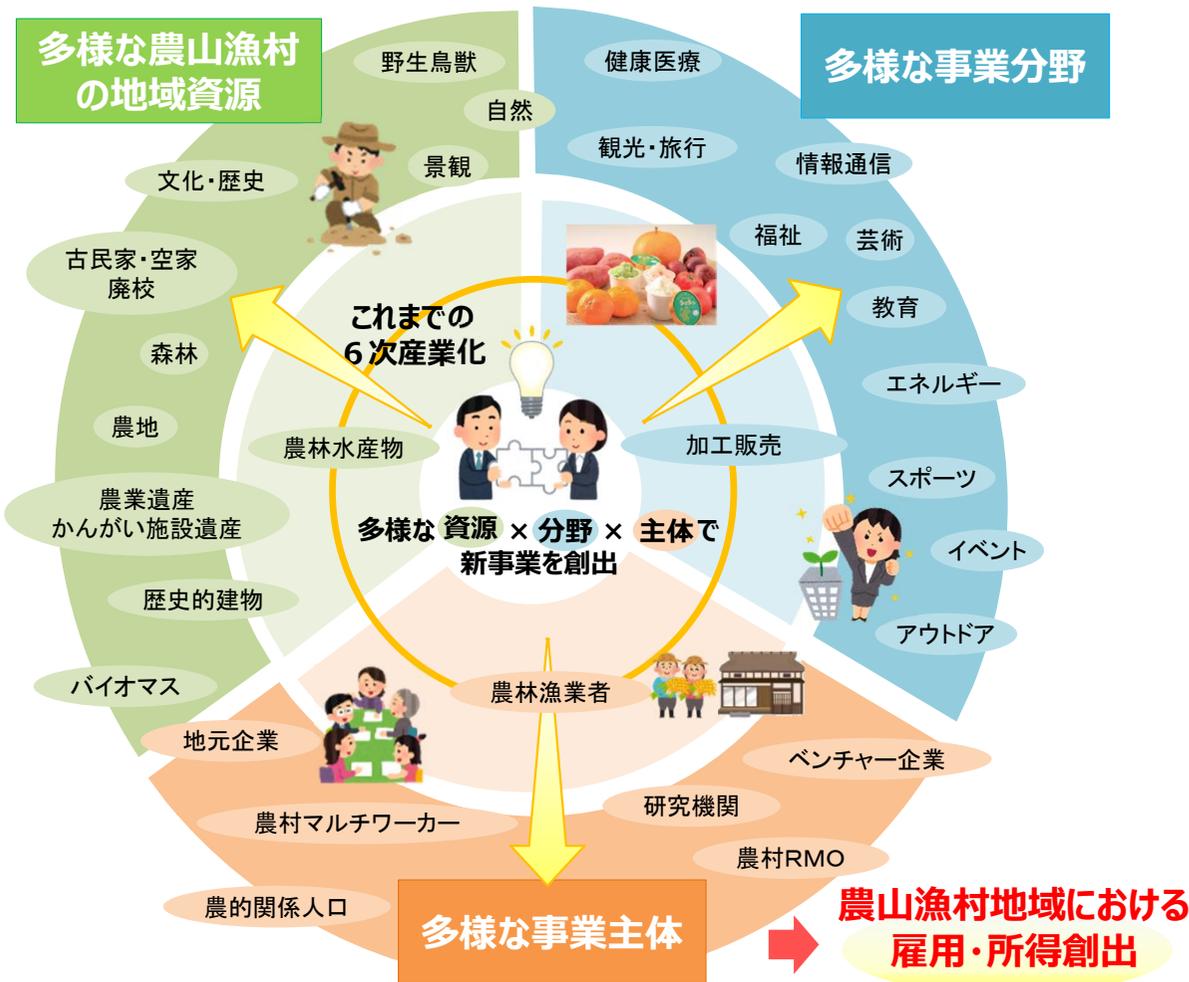
アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

農山漁村の振興：農山漁村発イノベーション

- 「農山漁村発イノベーション」とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値の創出を図る取組。

農山漁村発イノベーション

- 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進



農山漁村発イノベーションの事例

<例1>

「農産物、景観」 × 「加工販売、観光・旅行」
× 「農林漁業者、地元企業」

株式会社ワカヤマファーム
(栃木県宇都宮市)

タケノコや栗の加工販売に加え、美しい竹林景観を活かして、映画のロケ地や観光商品として活用。



<例2>

「森林」 × 「スポーツ」 × 「ベンチャー企業」

株式会社フォレストリー
(栃木県壬生町)

森林をフィールドとしたサバイバルゲーム事業を行うとともに、参加料の一部を森林所有者にも還元。



<例3>

「農産物」 × 「加工販売、観光旅行、教育」
× 「農林漁業者、地元企業」

有限会社 シュシュ
(長崎県大村市)

6次産業化による農産加工品の製造・販売のほか、食育体験や収穫体験など豊富なメニューの取組を展開。



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

一般職事務（高卒者）の採用について

令和7年度より、一般職事務（高卒者）の採用を行います

6/13 (金)
～
6/25 (水)

受験申込期間

9/7 (日)

人事院第1次試験
(筆記)

10/9 (木)

第1次試験合格発表
(9時)

10/14 (火)
～
10/15 (水)

官庁訪問
(予定)

10/15 (水)
～
10/24 (金)

人事院第2次試験
(面接)

11/18 (火)

最終合格発表
(9時)

農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

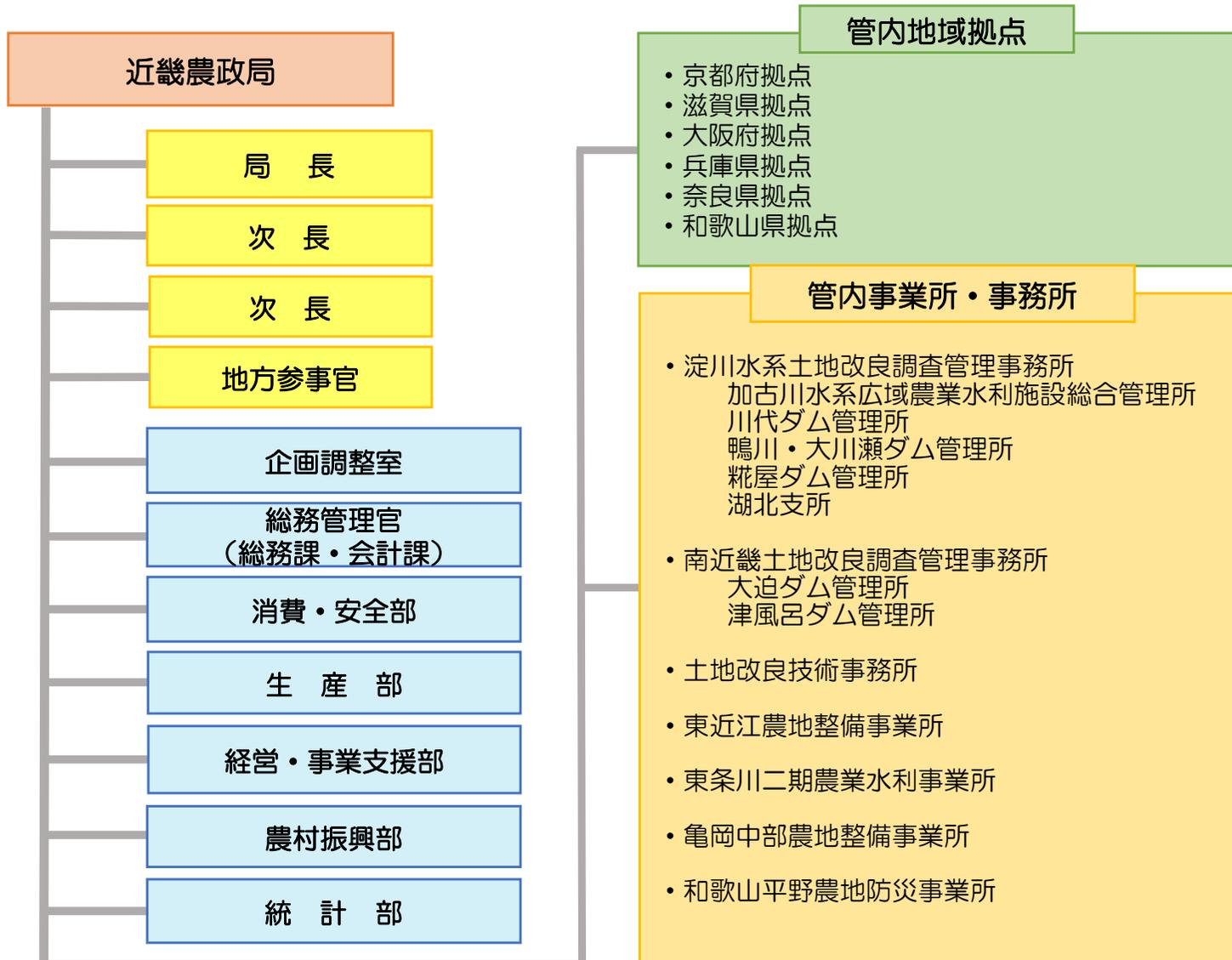
- 本省…農林水産政策の企画立案
- **地方農政局…農業政策の実施・周知・把握**

※その他（森林管理局、植物防疫所、動物検疫所、漁業調整事務所）



近畿農政局の組織

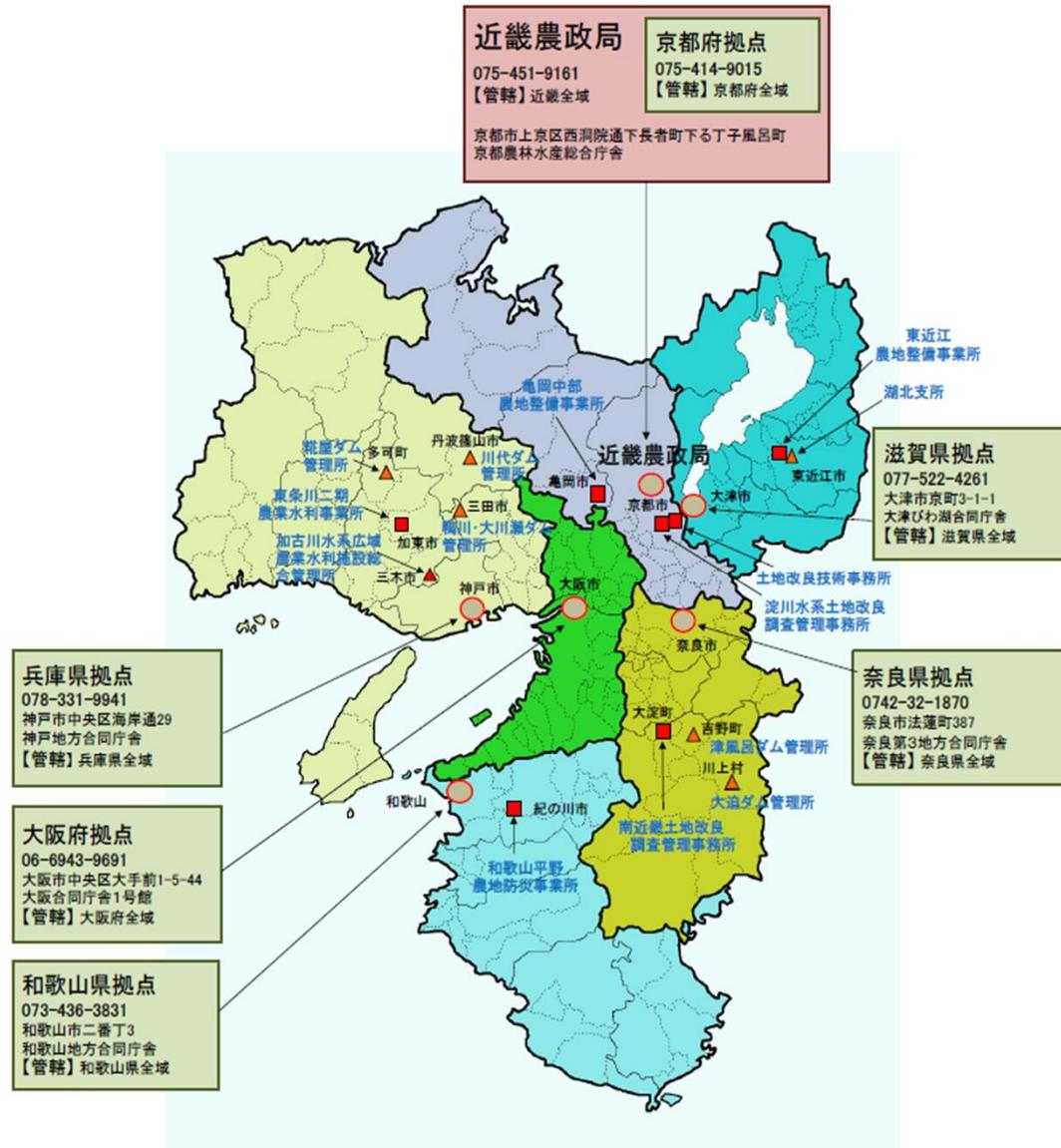
組 織 図



近畿農政局管内機関位置図

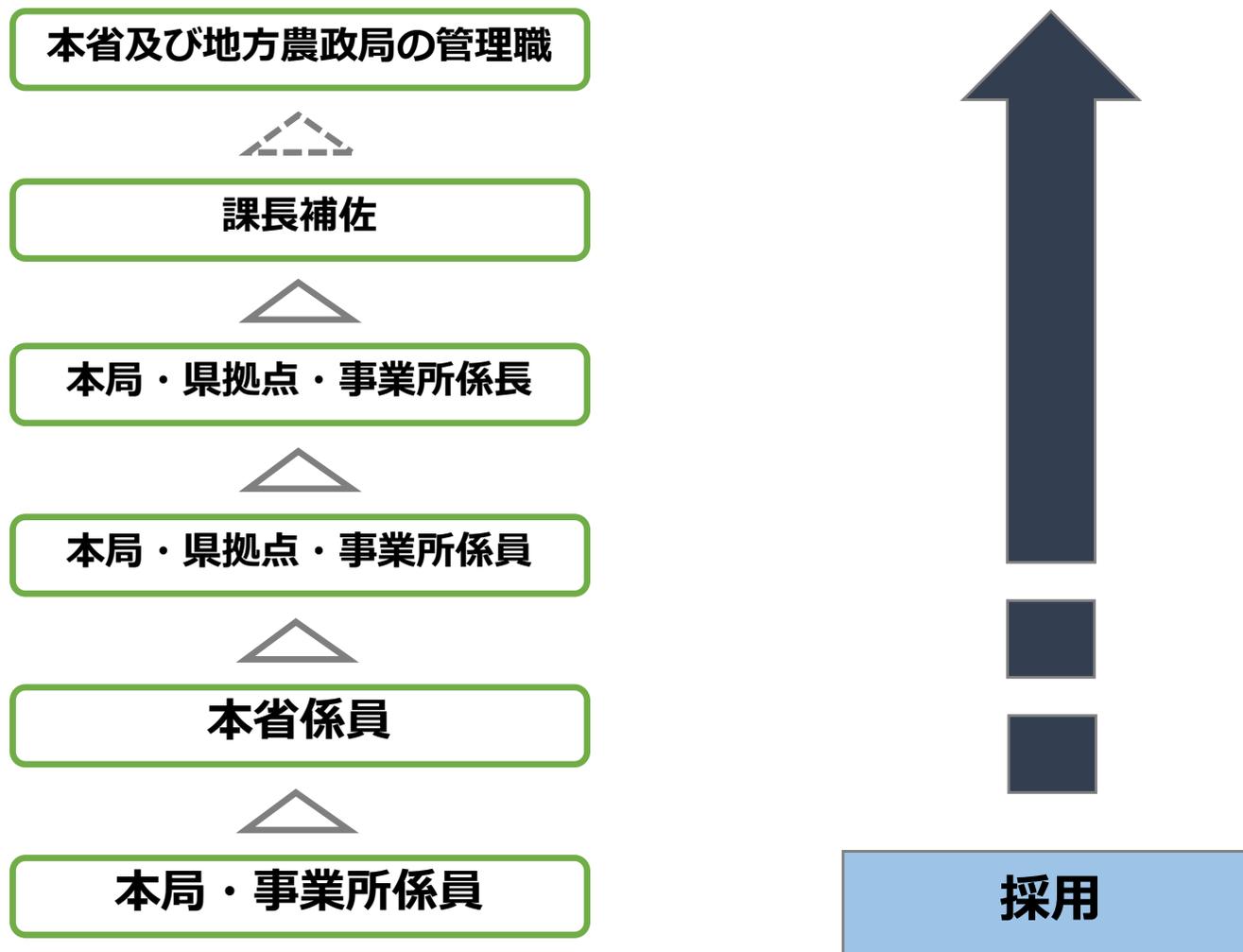
近畿農政局管内機関位置図

(令和7年4月1日現在)



キャリアパス（高卒者試験 事務（近畿農政局採用））

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。ただし、係長昇任前に**農林水産本省での業務経験**をしていただきます。
- ▼ 本人の希望を踏まえた上で、概ね2～3年程度で様々なポストを経験していただきながら経験値を高め、係長、課長補佐、管理職へと昇任していきます。



※行政系には2つの採用区分があります

- ▼ 行政の実施業務・運営管理業務を担当する**事務系（行政系）**と土地改良事業における**用地・管理業務**を中心に担当する**農村振興行政系**のいずれかの区分での採用となります。
- ▼ いずれのキャリアパスであっても、必ず本局以外の官署への異動があります。
(ただし、近畿管内は一部の官署を除き官署間の交通の便が比較的良好いため、官署をまたいだ異動となっても、転居されずに通勤で対応されている方も多くいらっしゃいます。)

採用区分の違い

採用区分	事務系（行政系）	農村振興行政系
業務内容	行政の実施業務・運営管理業務	土地改良事業における 用地・管理業務 中心
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県） <ul style="list-style-type: none">・近畿農政局本局・管内の地域拠点・管内の国営事業（務）所（庶務・経理等）	原則、近畿農政局管内（2府4県） <ul style="list-style-type: none">・近畿農政局本局（主に農村振興部の用地課、水利整備課等）・管内の国営事業（務）所（用地等）中心

近畿農政局の配属例①

食品表示監視等



(消費・安全部)

- 食品表示等についての監視、疑義情報受付立入検査など

農地関係業務

(経営・事業支援部)

- 担い手への農地集積・集約化の加速化(府県の取組のフォローアップなど)

輸出関係業務



(経営・事業支援部輸出促進課)

- 農林水産物及び食品の輸出に関する相談受付、情報提供
- 輸出証明書の審査・発行
- 地理的表示(GI)産品の登録に向けた手続き

農山漁村の活性化

(農村振興部)



- 農山漁村が持つ豊かな地域資源を活用した新事業や付加価値の創出、観光・福祉・教育等と連携した取組等への支援(農泊、農福連携)

企画・広報業務

(企画調整室)



- 局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- 近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

予算・会計業務

(会計課)



- 事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- 予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- 会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

人事・採用業務

(総務課人事第1係)

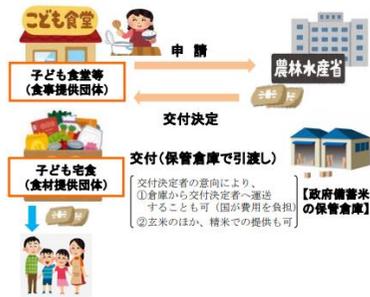


- 人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- 新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

近畿農政局の配属例②

米政策の推進等

(生産部)



- ・水田農業の高収益化の推進 (生産者と実需者のマッチングなど)
- ・子ども食堂・子ども宅食への政府備蓄米の無償交付 (令和6年9月1日より各地域拠点での申請受付開始)

食文化の発信

(経営・事業支援部 食品企業課)



- ・近畿の特色ある食や食文化を発信するため、食・食文化プログラム (関西 食の「わ」プロジェクト) の取組推進

統計業務の推進

(統計部)

- ・「地域の農業を見て知って活かすDB」の地方公共団体等に対する利用普及 (相談、技術的指導、問い合わせ対応)



現場と地域を結ぶ業務

(管内 地域拠点)



- ・府県・市町村・農業団体等への政策の説明、意見聴取、課題への対応
- ・6次産業化の推進、経営所得安定対策の実施、コメ政策や水田フル活用の推進等

庶務・経理業務

(管内国営事業 (務) 所 庶務課)



- ・国営事業に関する入札関係事務
- ・物品・役務等の調達
- ・所属職員に関する庶務関係事務

用地関係業務※

(管内国営事業 (務) 所 用地課)

※主に農村振興行政系



- ・国営事業に関する地元説明会の開催
- ・地権者の方への補償内容の説明
- ・土地評価・補償額の算定
- ・境界立会、補償物件の調査等

若手がどんどん行動しています

• BUZZ MAFF

霞ヶ関 初！ 官僚系 YouTuber 誕生

【設立】 2020年1月7日

【チャンネル登録者】 15万人以上

農林水産省職員自らが省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクト。



近畿農政局では、局内の若手職員を中心としたチーム「となりの近畿」を結成し、近畿農業の魅力を発信しています。



現場を知る

○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて
農業・農村の現場を肌で感じることを目的
とします。

入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地
の農家の元に5日間派遣し、**農業者の生活に**
密着し、**農作業体験の充実**を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場
の声を踏まえた施策を企画・推進する
ため、**管内各部の幹部による講演**や、
外部講師を招いた講演などを行って
います。

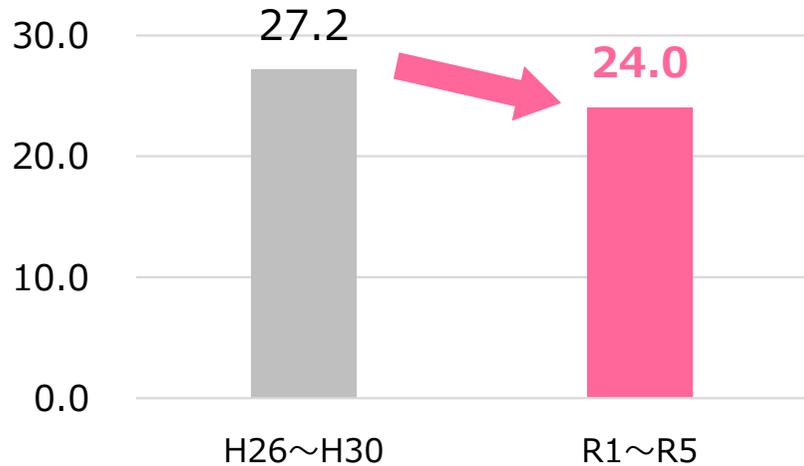
また、現場においてふさわしい礼儀
作法を身につけることを目的に、**ビジ**
ネスマナー研修も実施しています。



職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

(時間/月)



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

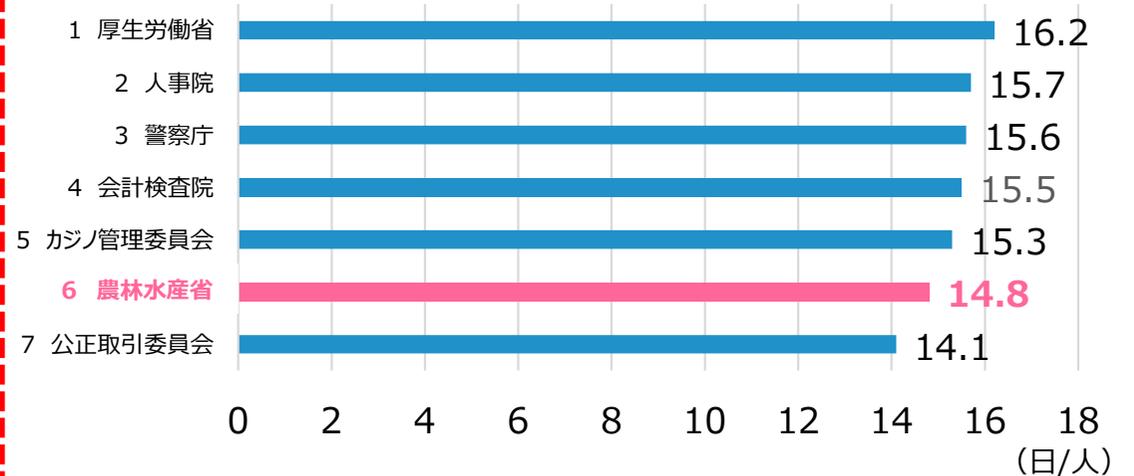
本省 (常勤職員)	22.0時間
地方機関 (常勤職員)	6.7時間
合計	10.7時間

※令和5年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で6番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト R4年末数値

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター



大きな転換期にある**社会課題**（**食・農林水産業**）に
幅広いフィールドで確かな**貢献**ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・今、農林水産業は課題が山積している
- ・ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・いつの時代になっても、**食と環境を守る仕事は決してなくなる**ない

幅広いフィールド

- ・1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・**ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある**

確かな貢献

- ・産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・食という身近なものに関われる
- ・ピンチの今だからこそ、**若手がチャレンジして変革を起こせる**

CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

一般職事務（大卒程度）職員

総務課支給係（令和5年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験は長い期間をかけて対策しなければならず、苦しい時間も多と思います。私は、長丁場な試験だからこそ、友達とご飯を食べに行くなどのリラックスする時間を月に数回ほど設けていました。みなさんも行き詰ってしまったときは、ぜひリラックスする時間をつくってみてください。気持ちがすっきりして、勉強や面接対策に集中できると思いますよ。

最後は自分自身の力を信じてください。これまで培ってきた実力を十分に発揮できれば、合格や内定を掴み取ることができると思います！みなさんと一緒に働くことができる日を心待ちにしております。

～職員の生活を支える給与事務～

Q1 今担当している業務は？

給与支給事務を担当しています。職員の給与計算は、基本的にシステム上で行われます。そのシステムの計算が適切に行われているかを確認するのが、私の主な仕事です。

職員の生活を支える給与を期日までに支払うという非常に重要な仕事を任されているため、常に緊張感を持ちながら業務に取り組んでいます。給与の計算方法や手当の制度などは、多岐にわたるため、学ばなければならないことも多く大変ですが、その分、できることも徐々に増えていくので自分自身の成長を感じられます。また、給与が支給日に口座に振り込まれた際には、やりがいも感じられます。

～日本の農業を支え、国民生活の源である「食」を守りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、日本の農業を支えることで、国民の生命の源である「食」を守りたいと思ったからです。教育実習で、「日本の農業」という分野を扱ったことをきっかけに、日本の農業が抱える様々な課題を知りました。近畿農政局では、日本の農業の課題に対して国民の「食」を守るために、多様な政策からのアプローチを行っており、そういった政策や業務に魅力を感じました。

また、説明会や座談会での温かい雰囲気が良かったというもあります。実際、入省してからもそのギャップは全く感じなく、いい環境下で働くことができています。

～プライベートと仕事を両立できる環境～

Q3 職場環境について

わからないことがあれば、上司の方々はすぐに教えてくださるので、安心して業務に取り組むことができます。

年次休暇については、積極的な取得が推進されていますので、とても取りやすいです。私事で恐縮ですが、12月には、2日間の年休を使い、ディズニーリゾートに行ってきました。

また、残業も繁忙期以外はほとんどないため、プライベートと仕事が非常に両立しやすく、とても働きやすい職場だと思います。



(2024年度時点)

会計課調達係（令和5年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験は民間就職と比較して就職先が決まる時期が遅いので、精神的にしんどいと思います。筆記試験が終わったら、面接試験がすぐ始まりあまり対策する時間もないと思います。

そこで、自分がどんな仕事をしたいのか、なんのために公務員を目指したのかについて考え直し、それを元にたくさんある省庁や自治体の中から絞って受験することで対策する時間の短縮にもなりますし、軸がしっかりし志望理由も深くなり思いや熱意が伝わりやすくなると思います。その中で近畿農政局を選んでくださった皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。体調に気を付けて頑張ってください！

～日々苦戦しながらも、やりがいのある仕事～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、会計課の調達係に所属しています。業務内容は職場で普段使用している複合機や公用車、パソコンの利用に関する支払業務や次年度に向けた年間契約業務など、主に局内で働く職員の方を支えるような事務一般を行っています。

契約業務を行うにあたって様々な業者の人と関わり、契約した内容の支払い事務の中では多くの局内の人たちと関わるので、仕様書をこうしたら業者の人たちに内容が伝わりやすくなるだとか、エクセルの関数をこう組みなおしたら支払い事務がスムーズになるだとか、前例踏襲ではなかなかうまくいかない点に日々苦戦しながらも、やりがいをもって業務に臨むことができます。

～強い国内農業を創造するために、農業を魅力ある職業にしたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学での専攻、私の祖父が農家ということもあり農業を身近に感じ、強い国内農業を創造するために農業を魅力のある職業にしていきたいと考えたのが、近畿農政局を志望した1番の理由です。

個別相談会や官庁訪問で感じた近畿農政局の雰囲気惹かれ、とても働きやすそうと感じたのが近畿農政局に就職する決め手となりました。正直、人事の人たちは話しやすい人が多いだろうなと思っていたので、実際の現場は期待通りにはいかないのかな思っていたのですが、人事以外の人たちも和やかで話しやすい人ばかりで、驚きました。

～経験をもとに丁寧に教えてくれる～

Q3 職場環境について

上司や先輩方は優しく和やかな方ばかりで、毎日楽しく働きやすい環境だと感じています。社会人に対する不安などがかなりあったのですが、その不安も気づいたらなくなっていました。上司や先輩に分からないことや困っていることを相談すると、ご自身のこれまでの経験や知識を踏まえて丁寧に教えてくださり、日々勉強になります。

自分のしている業務は月単位、年単位で大まかにするべき業務が決まっています、忙しくなるタイミングがわかりやすいです。そのおかげで、前もって休暇予定を組みやすく、さらに職場内では積極的に年次休暇を取得することが推奨されているので、プライベートも充実させることができます。



農村振興部農村計画課直接支払係（令和5年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は面接試験が特に不安でしたが、面接は面接官と会話ができる貴重な機会だと思って、丸暗記ではなく、伝えたい思いを自分の中で明確にした上で、自分の言葉で答えるようにしていました。また、友達や周りの人と面接練習をたくさんし、面接に慣れるようにしていました。自分では意図が伝わっている文脈でも他人には伝わらないこともあるので、そのあたりに気づくこともでき、おすすめです。

筆記試験対策との平行になり、時間が足りないとは思いますが、悔いが残らないよう、気になる官庁や企業の説明会・面接には積極的に参加してみてください！その上で近畿農政局を選んでくださった皆様と一緒に働くことができる日を楽しみにしています！

～現地を見て気づく、課題やニーズ～

Q1 今担当している業務は？

私は、傾斜等により農業の生産条件が不利な「中山間地域」における農業生産活動の継続を支援する交付金を担当しており、近畿管内の府県から提出される書類の内容確認やその後の事務手続き、府県担当者からの質問への回答等の業務をしています。質問等にはできる限りの対応をすることを心掛けており、担当者から「ありがとう」と言われるとやりがいを感じますし、更に頑張ろうという気持ちになります。

また、交付金を活用している地域等へ出向き、意見交換をする場合もあります。現地を見ることで、農政局で働いているだけでは分からなかった、中山間地域の現状や課題・ニーズなどが分かったりもするので、その点が出張の面白い点だと思います。

～国家公務員の立場から地域活性化に貢献～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は「地域の活性化に貢献できる仕事がしたい」と考えていて、最初は、国民の方々に近い市役所などを中心にみていました。ですが、近畿農政局の説明会に参加し、農泊の推進などを通じて国家公務員という立場からでも地域に貢献できると知り、農政局に興味を持ちました。その後、個別相談会や官庁訪問に参加し、近畿農政局の職員の方々と話をしていく中で、職場の雰囲気がとてもよいと感じ、自分も近畿農政局で人や地域のために働きたいと思い、近畿農政局を志望しました。

～自分次第で色々なことに挑戦できる環境～

Q3 職場環境について

職場の方々はとても優しく、上司や同じ班の人にも質問や相談がともしやすいです。入省前は、上司の方に指示を受けて作業をするという仕事が多いのかなと思っていたのですが、実際に働いてみると、私の意見やアイデアを求められる機会も多く驚きました。課や部の垣根を越えた研修や働く機会もあったりするので、自分次第で色々なことに挑戦できる環境なのではないかと思います。

また、テレワークや休暇も非常に取りやすい環境です。年次休暇は1時間単位でもとれるので少し早めに仕事を終えてゆっくりすることもできます。（私はライブやフェスに行くのが好きなので1日休みや数時間休みをいただいてライブに行ったりしています！）



農村振興部用地課用地係（令和5年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

筆記試験に向けて勉強するにあたって科目も多く、不安になることもあるかと思いますが、

私は勉強する時は同じく公務員試験を受ける仲間と一緒に勉強し、お昼休憩の時に色々な話をしていました。一人で勉強するのもいいですが、情報を交換できる仲間があると心強いので公務員講座や官庁の説明会などでぜひ仲間を見つけてみてください。二次試験対策においては仲間や大学のキャリアセンターの人にエントリーシートを見てもらったり、模擬面接をしてもらったりすることができ、本番への自信に繋がると思います。

長い勉強期間の中で、偶には休憩日を設けることも大切だと思います。悔いのないように最後まで頑張ってください。

～今まで触れてこなかった知識がわかるようになるやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は用地課で主に管内事業（務）所への指導及び権利保全対策を行っています。事業（務）所へは半年に1回書類の確認をしに行ったり、事業所からあがってくる工事のために借りる土地の価格算定方法が適正に行われているか確認したりしています。権利保全対策では農林水産省名義の地上権等の現状を確認するために法務局へ書類を申請し、それに基づいて一覧表を更新する作業等を行っています。

用地課で行う業務は今まで触れてこなかった知識ばかりです。それが少しずつわかるようになり着実に業務に貢献できるようになってきていることにやりがいを感じます。また、様々な前歴事業の内容を教えてください方も面白いです。

～現場の近くで、より良い農業基盤づくりに貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は局内で仕事をするだけでなく、実際に現場に行くことができる仕事がしたいと思っていました。各官庁の業務説明会等に行く中で、農政局では実際に事業所で現場業務を行うこともできると知りました。現場に近いところで農村整備事業に携わり、より良い農業基盤づくりに貢献したいと思い志望しました。

私は入省するまで農業関係には全く触れたことがありませんでしたが、事業実施現場を見ることで農業の現状や事業内容をよく理解できます。現場に出ることに興味がある方にも、農政局の業務内容は魅力的だと思います。

～普段から関わりを持つことで
業務にも取り組みやすい～

Q3 職場環境について

用地課内は話好きな方も多く、賑やかなことが多いです。誰にでも話しかけやすい雰囲気なので、わからないことはすぐに上司に尋ねることができます。事業所にいる前任者の方からも電話や研修で会った時等に様々なことを教えていただいています。

業務以外でも同期とお昼ご飯を食べたり、農村振興部内の若手で技術系の人とも飲み会を行ったりと楽しく過ごしています。普段から関わりを持っていることで、業務を共に行うときにも協力して取り組みやすい体系ができています。実際に1年目でも事業（務）所の職員や局外の同期とも面識があります。



生産部生産振興課備蓄米等振興第2係（令和6年度行政系採用）

～感謝の言葉をいただいたときにやりがい～

Q1 今担当している業務は？

主にお米の消費拡大に関する業務、こども食堂などに対する政府備蓄米の無償交付の申請受付、お米の販売事業に関する届出の業務などを行っています。

お米の消費拡大に関する業務としては、近畿米粉食品普及推進協議会と連携して大阪で米粉フェスというイベントを行ったり、米粉商品を取り扱う店舗を取材してマップを作ったりしてお米の消費拡大を目指しています！米粉フェスでは様々な準備を行い、当日多くの人を楽しんでいる様子を見て達成感を感じました。

また、政府備蓄米無償交付に関して、初めは業務について理解することが難しかったですが、最近は業務にも慣れ問い合わせや申請の対応をして、感謝の言葉をいただいたときにやりがいを感じます。

～生活の基礎となる「食」を守りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

法学部出身ですが、大学の授業で農業に関する課題や食料自給率の低下について学ぶ機会があり危機感を持ち、生活の基礎となる「食」を守りたいと感じたことがきっかけです。他の官庁や市役所などもいくつか受験しましたが、最終的な決め手は説明会や官庁訪問を通して近畿農政局の雰囲気の良いさを感じたことでした。

近畿農政局の魅力は、職場の方々がとても優しいことです。入省前から「優しい人が多い」と聞いていましたが、実際に入ってみて本当に実感しました。分からないことがあるときは周りの皆さんが親身になって教えてくださいます。また、若手の意見もたくさん聞いてくださることも魅力の一つだと思います。1年目の私も意見を出しやすい環境です。

～研修や出張での意見交換等を通して知識が増えた～

Q3 職場環境について

質問や相談がとてもしやすい環境です。業務に関することはもちろん、直接的に関係ないことでも困っていることがあれば周りの方が気にかけてくださいます。

部署を超えて仕事をする機会があることもあり、夏休みの小学生向けのイベントでは若手職員の有志チームでブースの出展を行いました。研修や出張の機会も多くあり、私は事務系の採用で農業に関する知識がほとんどない状態でしたが、研修や出張での意見交換等を通して少しずつ知識が増えてきたと感じます。

また、年次休暇やテレワークに関してとても柔軟な環境です。1時間ごとにお休みを取ることができるので柔軟に予定を組むことができます。業務以外では、同期でお昼を食べたり、仕事終わりに飲みに行ったりと楽しく過ごしています。



皆さんへのメッセージ

公務員試験は本当に長丁場で民間就職と比べて決まる時期が遅いことが多く、やらなければならないこともたくさんあり焦る気持ちが大きいと思います。

私自身何をすべきか悩んでいたときに、数か月ごとの大まかな目標、1か月ごとの目標、1週間ごとの計画、というようにやるべきことのスケジュールを立てると先が見えやすくなりました。計画通りに進まなくても焦らず、修正しつつ少しずつ進めていくとやってきたことが積み重なって力になるのではないかと思います。自分のペースで焦らず頑張ってください！

みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています！



生産部園芸特産課施設園芸環境負荷低減係（令和6年度行政系採用）

～多種多様な業務があり、日々新鮮な気持ちで取り組むことができる～



Q1 今担当している業務は？

生産部園芸特産課で野菜の振興を担当しています。近畿管内の野菜に関する調査の取りまとめのような事務的なお仕事から、いちごの品評会への出席準備や『消費者の部屋』での展示など対外的なお仕事まで幅広く行っています。

また、国の事業で導入した施設や、生産者のもとに出向き、現地調査を行うこともあります。実際に農業をされている方からの生の声を聞くことで、いつも多くのことを学ばせていただいています。

入省前のイメージとは異なり、ルーティン業務だけでなく多種多様な業務があるため、日々新鮮な気持ちで取り組むことができます。

～日本の農業や食を守る一助になりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

「食べることが大好き！」ということが近畿農政局を志望した一番大きな理由です。日本の食が大好きだからこそ、農業従事者の減少や食料自給率の低下に問題意識を持ち、私も日本の農業や食を守る一助になりたいと思いました。また、説明会等で職員の方々の優しい雰囲気の魅力を感じたことも理由の1つです。

近畿農政局の魅力は、若手が活躍できる場がたくさんあるところだと思います。YouTubeチャンネル『BUZZMAFF』やみどり戦略の若手チーム『ええやん！みどり』など、若手職員が主体的に取り組める場が多くあります。普段の業務では関わることのできない分野にも携わることができ、視野を広げることができました。また、同世代の職員とも交流を深め、横のつながりができるのも魅力です！

～農業の知識がない中でも楽しみながら勉強～

Q3 職場環境について

職場の方々はとても優しく、質問や相談がとてもしやすい環境だと思います。私は事務系で入省し、農業の知識があまりない中で仕事を始めましたが、先輩方が「〇〇知ってる？」などと話しかけてくださり、日々楽しみながら勉強をさせていただいています。

また、業務で困ってしまった際も丁寧に教えてくださるので、安心して仕事を進めることができます。

休暇も取りやすく、プライベートと仕事が両立しやすい職場だと思います。最近では2日間年次休暇を利用して、3泊4日で友人とベトナム旅行に行きました！社会人になってもいろいろな場所に行くことができ、とてもうれしいです！

皆さんへのメッセージ

公務員試験は長くてつらいものだと思いますが、頑張った分結果もちゃんとしてくるものだと思います。私自身、最後の模試までギリギリの点数でとても不安でしたが、最後まであきらめずにやり続けたことで、本試験では、過去最高の点数を取ることができました。また、面接も正解がなく不安だらけだと思いますが、緊張しすぎず、みなさんの想いと普段の素敵なお話を伝えてください。

つらいことも多いと思いますが、たまには好きなことをして息抜きしながら、最後まで頑張ってください！皆さまと一緒に働ける日を楽しみにしております！



経営・事業支援部食品企業課（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験については長期戦になる分、募った不安をいかに払拭するかに苦労した記憶があります。筆記試験については、人一倍勉強することで安心して試験に臨むことができましたし、面接については、自身の言葉で思いを伝えるだけだという意識を持つと、自然と緊張がほぐれました。そのため、本番までに自分なりの戦い方を見つけることが大切だと私は考えています。

また、気になる官庁や企業の説明会等に積極的に参加することで、悔いの残らない就職活動になると思います。

近畿農政局にて皆様と働ける日を楽しみにしております。

～自身のアイデアを基に何かを作り出す業務が多々あることに魅力～

Q1 今担当している業務は？

私は経営・事業支援部食品企業課にて、適正取引の推進や物流問題の把握等の業務を担当しております。業務上、食品製造業者の方とお話をさせていただくことが多いのですが、国としての立場からの視点だけでは気づかない様々な課題について認識することができ、自身の視野を広げることができる点に魅力を感じております。

また、課内では様々なことに挑戦をする機会があり、ホームページ作成やイベントで用いる資料・のぼりの作成など、主担当の業務だけではなく、自身のアイデアを基に何かを作り出す業務が多々あることも魅力だと感じております。

～国としての立場から、生産者から消費者に至るまでの人々を応援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は普段から食品の裏の表示を見て、成分や産地を確認し商品を選ぶ習慣がありました。その中で、年々国産の商品が減少していることを感じました。後世の方々が国産の食品を食べることのできるように、国としての立場から、生産者から消費者に至るまでの人々を応援したい、そのような思いから近畿農政局を志望しました。

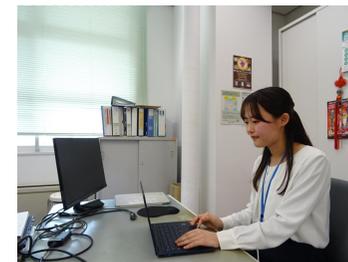
近畿農政局では、研修制度が充実しており、知見を広げることができる点が魅力だと感じております。例えば、部内においては、工場見学を行い直接製造事業者の方と意見交換を行ったり、部外においては、会計事務や統計データの取り扱いの基礎を学んだり等、部内の知識だけではなく、部を超えた様々な業務の知識を学ぶことができます。

～仕事とプライベートの両立がしやすい環境～

Q3 職場環境について

初めての業務内容に戸惑うこともありますが、何か分からないことがあればすぐに上司に相談できる環境にありますし、上司はご自身の知識や経験を踏まえて適切にアドバイスをしてくださるので、安心して業務に臨むことができっております。

また、テレワークや時差出勤などの制度が浸透しており、実際に課内においても多くの方が利用しています。さらに年次休暇の取得についても推奨されており、仕事とプライベートの両立がしやすい環境です。



農村振興部用地課用地係（令和6年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

アドバイスではありませんが、もし、試験を受ける前の自分に教えることができるならば、筆記試験では勉強の手を広げずに繰り返すこと、面接試験では自分がここで働きたいという想いをもっと純粋に伝えることを教えてあげたいです。公務員試験は長丁場になると思いますが、皆さんらしく、お体に気を付けて頑張ってください。そしてもし一緒に仕事させていただける機会がありましたらよろしく願います。めっちゃめっちゃ応援しています！

～周りからのサポートが厚く、とにかくまずやってみようと思える～

Q1 今担当している業務は？

私は公共事業に必要な土地の手当を行う農村振興部用地課に所属しています。現在担当している業務は、土地買収等に係る契約事務や土地を評価算定する書類のチェック、土地所有者の調査や所在確認及び相続人調査、打合せ・会議等の準備と議事録の作成、その他庶務業務です。必要な知識が多く難しいと感じます。しかし、その分毎日学ぶことがあって新鮮で充実していると思います。また、周りからのサポートが厚く、とにかくまずやってみようと思えます。

～形として残るハード面の整備に魅力を感じる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

まず、この国の「農業」「食」に関わりたいという思いがありました。中でも形として残るハード面の整備に魅力を感じました。そこで、技官ではない私が事務官として関わることができないかと探していたところ用地の仕事を見つけました。また、地権者説明を始め、農政局外の方と接する機会が多いことや現場での立会いや調査など外で仕事をする機会が多いことにも興味を持ちました。

～多くのことを学び、挑戦をたくさん得ることができる職場～

Q3 職場環境について

多くのことを学び・挑戦する機会をたくさん得ることができる職場だと思います。勤務時間内外及び仕事に関する内容か否かを問わず、色々なことが相談しやすく、楽しい話もたくさんできるので居心地が良いです。また、課として一体となって仕事を進めようとしていて、そのために議論を欠かさないことに力を入れていることが間近で見えてよく分かります。加えて、仕事とプライベートのメリハリはしっかりあり、年次休暇は積極的に確保することができます。最後に、入省前とのギャップは特にありません。人の良さはイメージどおりですので、雰囲気を感じられる近畿農政局の説明会や座談会等に参加されることをお勧めします。



(2024年度時点)

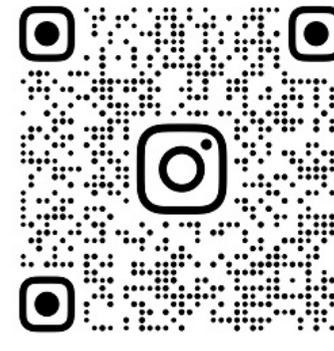
ご覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HP、採用担当Instagramに掲載しています。

近畿農政局HP



採用担当Instagram



MAFF_SAIYOUKINKI

- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第2係

Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp

Tel: 075-414-9032

ご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。